

日本気象学会国際学术交流基金への募金のお願いと寄付者御芳名（第10報）

日本気象学会は、かねてから各国の気象関係組織および研究者との学术交流を図るため、国際学术交流基金をもうけて、学会もしくは会員の学术交流の援助を目的とした活動を致しております。実施にあたっては、外国で開催される国際学術研究集会への会員の出席の補助、国際学术交流に貢献する事業の援助などです。

本来この基金は、少なくとも一千万円程度の元金があって、その利息で活動費をまかなうことを目標としていますが、現在のところ、その過渡期として、学会自身の年間予算から毎年約百万円を積み立て、並行した、わずかの一般事業費と篤志による個人寄付金で活動を行って

おります。

基金の基礎を固めるためには、是非、会員の皆様からの御寄付をお願いします。理事会としては、さらには大口の団体寄付を仰ぐべく努力致す所存です。国際学术交流基金の趣旨を御理解いただき、12月号挿入の振替用紙を御利用の上、一口千円として、なるべく多くの御寄付をお願いします。

なお、募金期限は昭和62年12月末日と致しますが、早い時期にお振り込みいただきますようお願いいたします。

昭和62年4月

日本気象学会

昭和62年3月31日現在、下記の会員からご寄付がありましたので、お礼を兼ねて報告申し上げます。（敬称略）

記

播磨屋 敏生、北川 信一郎、佐藤 康雄、大西 健二郎、栗田 秀實

以上 5名	合計口数	19口	19,000円
累計114名	総口数	753口	753,000円
62. 3. 31 現在	国際学术交流基金額	5,000,000円	
	（うち配当金	158,683円	基金繰入）

編集後記：編集委員の顔ぶれを見ると、気象庁16名（うち、本庁10、研究所3、その他3）、大学関係3名、研究機関1名となっている（62年3月現在）。会員構成の比率からしても、気象庁関係者がやや多い感じであるが、委員会が気象庁内の会議室を借用する関係で、地理的事情と大家への気がねから止むを得ないであろう。しかし、地の利は必ずしも出席率に反映していないようだ。かく言う私も、低下に寄与している1人であるが、

近年、気象学会の会員の所属・関連分野は幅広く広がってきている。それだけに、学会会費のかかなりの部分を費している「天気」は、多様な期待に応えなければならない。とりわけ、気象庁、大学、研究機関以外の、環境にあまり恵まれない会員の方々への情報提供が重要である。

編集委員にも声なき声を代表される方の参加が望まれる。そのためにも、わずか数階の階段も上れないようなぐうたら委員は早く退かねば……。

昨年の今頃はハレーフィーバー、さて今年は……、大部分(?)の会員に縁のない話を中心のようです。〔瀬〕

天気編集委員会では、会員の皆様のための新企画として、次号より気象庁長期予報課の協力を得て、世界の天候及び気候表を掲載することとなりました。これまでの月平均500mb天気図と合わせて、総合的な資料としても利用できることと思います。なお、これに伴い、今月掲載予定の月平均500mb天気図（1987年3月）は、来月号に掲載することになりました。（編集委員会）